

【別紙1】各社の再エネへの取り組み

大阪ガスは、2021年1月に「Daigas グループ カーボンニュートラルビジョン」を発表し、2050年のカーボンニュートラル実現に向け、2030年度までに、自社開発や保有に加えて、他社からの調達も含めて、国内外で500万kW^{*1}の再エネ電源の普及に貢献することを目指しています。本事業を含め自社開発・保有および他社からの調達を含めた再エネ電源の普及貢献量は約224万kWです。

JAMLグループは、経営理念「Real Challenge, Real Change」に掲げる「より良い社会と未来」に向けてサステナビリティ経営を推進しており、持続可能な社会の実現に向けて、企業活動を通じた社会課題の解決に取り組んでいます。また、サステナビリティ経営の重点取組として、「脱炭素に向けた再生可能エネルギー普及とトランジション促進」を掲げ、再エネ関連ビジネスの拡大を志向しています。今後も金融から事業投資・その関連ビジネスにグループとして一気通貫で取り組むことで再エネ関連領域を拡大してまいります。

afterFITは発電・送電・売電を一気通貫で行える強みを生かし、再エネの普及のため、各種課題を解消するサービスを開発・提供しています。今回の農地活用は、太陽光発電所の用地不足に対する施策のひとつでこの他にも、駐車場を有効活用するソーラーカーポートの開発や、系統用蓄電池の事業を通じて、引き続き低炭素社会の実現に貢献してまいります。

*1：再エネには、太陽光、風力、バイオマス等のFIT制度の適用電源を含む